投稿規程・編集後記

鳥取市立病院業績集　論文投稿規程

20210903改訂

1　投稿者

鳥取市立病院職員であること、かつ当該年度内の実績であることを原則とする。

2　原稿の採否

原稿の採否は、編集担当者において決定する。

3　原稿の書き方

1）原稿は和文とする。本文は、Word文書で作成（日本語はMS明朝体、外国語はCentury、10.5ポイント）し、A4版に横書きで記載する。句読点を適切に使用し、原則として文中、図表の外国語やアラビア数字は半角とする。文書にはタブ設定、段組、脚注等の複雑な特殊設定はせず、改行は段落変更以外使用しない。

2）論文は次の体裁を整えること。

（1）研究論文・看護局看護研究

①表題、所属、執筆者名

所属は、鳥取市立病院　所属部署名　氏名の順に記載。複数の場合は、それぞれ部署名と執筆者名を明記する。例）鳥取市立病院　内科　鳥取　太郎

②要旨

③キーワード（5語以内）

④本文

本文は原則として、緒言、対象および方法、倫理的配慮、結果、考察、結語（謝辞）の順序で構成する。ただし、論文の性質によっては簡潔にしてもよい。

⑤引用文献

引用文献は本文の次に一括して記載する。＊7「引用文献の書き方」で詳細を述べる

⑥図・表・写真

表、グラフの作成には、Excelを使用し、Excelファイルを提出する。図・写真などはjpg等の画像形式として提出する。なお、最大でもA4半ページに納まるサイズとし、挿入箇所は本文中に明記する。図表の配色は、白黒印刷を考慮する。説明用配布資料・パンフレット・アンケート用紙等は添付しないこと。（ただし論文の中で重要な位置づけとなる場合には、抜粋部分を掲載することは可能である。）

図及び表は図1、表1と番号を付ける。

（2）症例報告

①表題、所属、執筆者名

②要旨

③キーワード（5語以内）

④本文：緒言、症例、結語の順に記述する。

⑤文献

⑥図・表・写真

4　個人情報の保護

個人情報保護に十分配慮し、個人が特定できる情報は記載しない。

例）患者A　20歳　男性　　のように表記し、イニシャルは使用しない。

写真には目隠しを行い、診断画像等においてもID、氏名等は削除しておく。

5　校正

査読は、執筆者（看護局、医療技術局は所属長含む）において十分に行うものとする。原稿の長さ、文体などについて編集上の都合で改変を求める場合がある。校正作業は、編集担当者を中心に行う。

6　原稿の提出について

上記3の様式で作成した電子ファイルを院内サーバ上の指定された場所に保存する。原稿提出期限は、毎年5月末とする。雑誌掲載論文に関して転載許可が必要な場合は、編集担当者が許可申請を行うので雑誌名及び出版社等を編集担当者へ通知すること。

7　引用文献の書き方

引用文献は、本文中の引用箇所に順次に肩番号をつけ本文の終わりに肩番号の順序に従って列挙する。文献ごとに著者名、標題、雑誌名、発行年（西暦）、巻号、頁（最初と最後）を明記する。複数著者名は筆頭著者のみとし、「、他」「,et al.」で省略する。欧文雑誌名はIndex Medicusの省略名、邦文雑誌名は医学中央雑誌の省略名に各準拠する。投稿中、印刷中または巻や頁が確定していない段階で「Epub ahead of print」として雑誌刊行前にオンラインで発表されている論文の場合は、書誌事項を規定に従い記し、頁数の位置に「inPress」または「Epub ahead of print」などと記載し、DOI表示がある場合は記載する。

a.逐次刊行物（雑誌・新聞）の場合

1）足立誠司. 鳥取市立病院を含めた東部圏域での地域包括ケアへの取り組み. 地域連携入退院在宅支援. 2017；10（1）：77-83.

2）医療事故調届け出36件. 朝日新聞. 2016年1月9日朝刊：第5面

3）Kakehi E,et al. Serum non-high-density lipoprotein cholesterol levels and the incidence of ischemic stroke in a Japanese population: the Jichi Medical School cohort study. Asia Pac J Public Health. 2015；27（2）：NP535-543.

4）Kim HB,et al. Mesenteric Artery Growth Improves Circulation (MAGIC) in Midaortic Syndrome.　2017 Oct 5;Epub ahead of print. doi:10.1097/SLA.0000000000002540.[引用2017-10-10]

b.単行本の場合

1）浦上克哉. 認知症よい対応・わるい対応. 日本評論社.2010.

2）足立誠司. 痛みの評価-鎮痛薬の投与をする前に痛みの評価を行う：スーパー総合医緩和医療・終末期ケア. 長尾和宏編. 中山書店. 2017. 18-23.

3）日本医師会男女共同参画委員会、他. 女性医師バンクの認知：女性医師の勤務環境の現状に関する調査報告書. 2009. 27.

4）L.H.Sobin,et al.（UICC日本委員会TNM委員会訳）.TNM悪性腫瘍の分類 第7版 日本語版. 金原出版. 2010.

c.電子文献の場合

1）独立行政法人統計センター. 政府統計の総合窓口（e-Stat）.　[引用2017-10-10] Available from URL http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do

2）厚生労働省. 平成26年患者調査 上巻第3表（その2）推計患者数の年次推移,入院-外来×傷病分類別（平成8年～26年）.　[引用2017-10-10] Available from URL http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001141596

編　　集　　後　　記

本冊子は、令和7年度における主な診療実績、研究成果および各部門の活動を詰め込んだ業績集をお届けします。本巻の発行に際し、ご協力とご尽力をいただいたすべての部門の皆さまに心より感謝申し上げます。

さて、令和7年は2040年を見据えた「新たな地域医療構想」の具体的な方向性が示され、医療提供体制の更なる機能分化と連携強化が強く求められた1年でした。当院におきましても、高度急性期・急性期機能をしっかりと果たしながら、患者さんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、「治す医療」と「支える医療」を切れ目なく提供する地域医療の要としての役割を再認識し、多職種および地域医療機関との連携強化に努めてまいりました。

また、当院の令和7年度の大きなマイルストーンとしましては、6月にJCEP（卒後臨床研修評価）の認定を受けました。これを契機として、次代を担う若い医療従事者の育成基盤が一段と充実したものとなりました。未来の医療を支える人材が当院で確かな知識と技術、そして患者さんに寄り添う心を育み、育っていくことは、組織全体に新しい活気をもたらすことに繋がると考えています。

全国に目を向けると、近年は各地で山火事、洪水や地震などの自然災害が頻発しています。幸い鳥取県内においては大きな災害に見舞われずに推移したものの、いつ起こるか分からない有事の際において、病院全体で迅速に対応できる体制づくりと、命を守り抜く強い覚悟の重要性を改めて痛感する出来事でした。不測の事態にあっても地域医療の灯を絶やさないための備えを、職員全体で共有し深化させていくことが私たちの責務であると認識しております。

今後も自治体病院としての責務を果たしながら、時代の変化に応じたタイムリーで開かれた情報発信に努め、地域住民の皆さまの命と健康を守る拠点として歩みを進めてまいります。

本巻を閲覧いただく皆さまにとって、知見を深める一助となることを祈念しつつ、発刊のご報告とさせていただきます。

令和8年10月　編集担当者

鳥取市立病院業績集　第32巻
令和7年度実績

発行：鳥取市立病院
鳥取市的場一丁目1番地
TEL (0857)37-1522